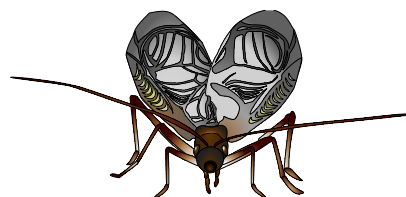


季節と生き物

4年	季節の音を手がかりに
	音の持ち主を探そう

身近な動物の野外での観察は、目的としている動物がどこにいるのかわからなかったり、見つからなかったり、子どもにとっても難しい場合があります。そこで、音の持ち主を探す活動を各季節毎の導入として行い、季節を音から感じさせると同時に、興味・関心を高めるようにします。



1 サウンドマップを作ろう ~周囲から聞こえてくる音を「地図」として表現~

校庭などに一人で座ると、四方からいろいろな音が聞こえてきます。そこで、自分の位置を中心に示し、その場で聞こえてくるすべての音を地図のように表現します。

この単元では、指導者側があらかじめ聞かせたい音（季節を代表する音）を決め、その音がよく聞こえる時間帯を選んで行うようにし、季節を音で感じ取らせるようにします。

(例)

- 春 カエル
- 夏 セミ
- 秋 スズムシ、コオロギなど
- 冬 風の音

(1) 準備 サウンドマップカード、鉛筆

(2) 方法

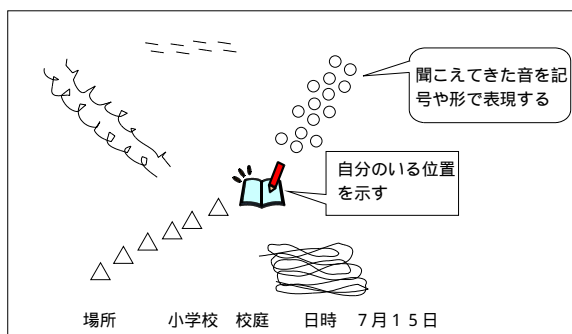
カードを一人ずつに配る。

ゲームの説明をする。

- ・校庭の気持ちの良さそうな場所に一人で座ります。
- ・始まりの合図があったら、聞こえてきた音を文字ではなく記号や形でカードに描いていきます。
- ・見本を一つ描いて見せながら説明します。

移動して良い範囲を確認してから、なるべく散らばって座らせ、静かになったところで始まりの合図をする。

10分ほどして、終わりの合図で全員を集め、互いに見せ合う。



聴覚を使った観察・・・聞いているようで聞いていない・・・

この活動をする時、意外なほどたくさんの音があることに気付かされます。生物の発する音を意識して聞いたことがない子どもも多く、10分間はあっという間に過ぎてしまいます。なるべく人工的な音が少ない場所で行う方が望ましいのですが、子どもが描いたサウンドマップを見ると、人工的な音を自然界の発する音と区別して表現する場合も多く、興味深いものがあります。

2 音の持ち主を探そう

- ・その季節で音を聞くことができた動物をまず探し、その動物を観察します。
- ・次に、あらかじめ決めておいた動物や、前回の季節で聞こえていた音の持ち主を捜し、同様に観察します。



大きな音を発している時は、多くはその動物が活発に活動している時であり、比較の見つけやすく、活動も観察しやすい時期でもあります。そこで、音を手がかりとしてその動物の活動を調べる動機付けをすることがねらいです。

このような活動で見つかった動物については、観察だけでなく資料なども調べて1年間どのような生活を行っているのか、まとめることになります。

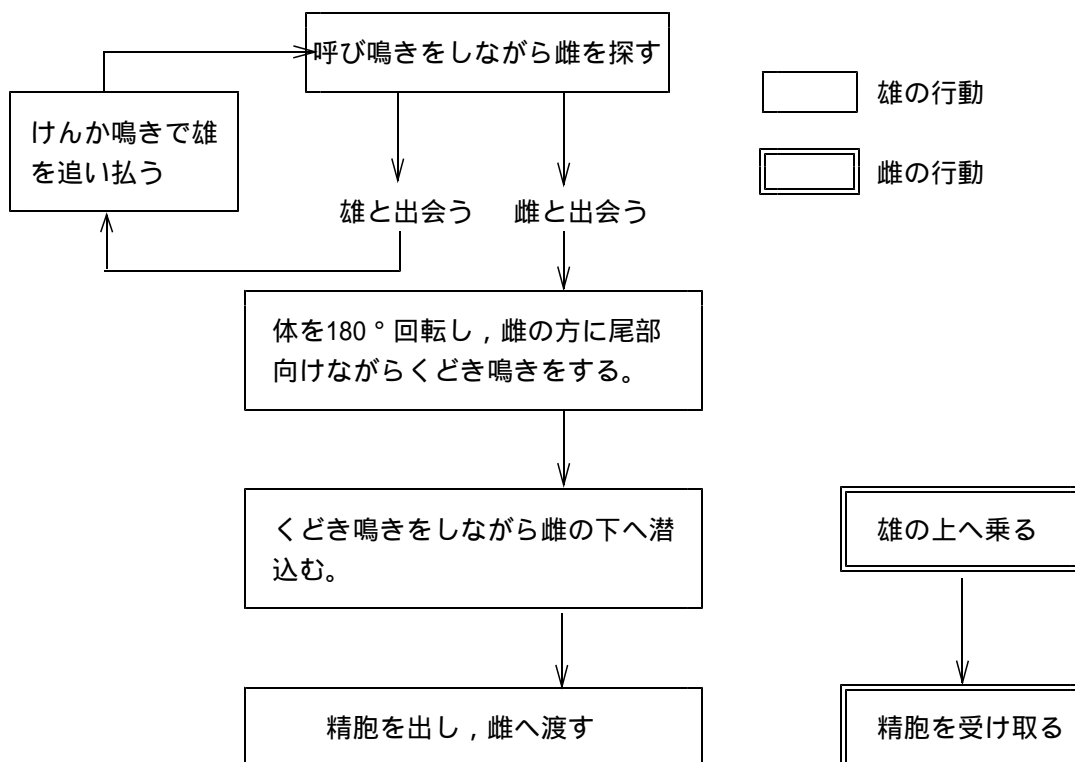


何のために音を発するの？

ほ乳類、鳥類、昆虫など音を発する動物にはいろいろな種類があります。音の出し方、音を出す目的なども様々ですが、多くの場合はなわばり行動や配偶行動などで利用されています。音を発することで自分の存在を他へ知らせることができますが、逆に外敵に見つかりやすくなるという側面もあります。

コオロギの行動を鳴き声を聞きながら観察してみると

コオロギは雄のみが鳴きます。何となく聞いているだけでは、鳴き声の違いはなかなか区別することはできませんが、成熟した雄2匹と雌1匹を同じ容器に入れて暗くして行動の観察をすると、「呼び鳴き」「くどき鳴き」「けんか鳴き」の3種類の鳴き声があることがわかります。



- ・けんか鳴き・・・羽を高く上げて相手を威嚇するように鳴く。大きな音。
- ・呼び鳴き・・・最もよく耳にしている鳴き声。
- ・くどき鳴き・・・羽を低くしながら鳴く。チッチッチというやや小さな鳴き声。